5 iStorage NSのその他の使い方

- ネットワーク上のプリンターを使う
- 削除済みのファイルを完全に消去する
- iStorage NS上のファイルを高速検索する
- iSCSI を使う

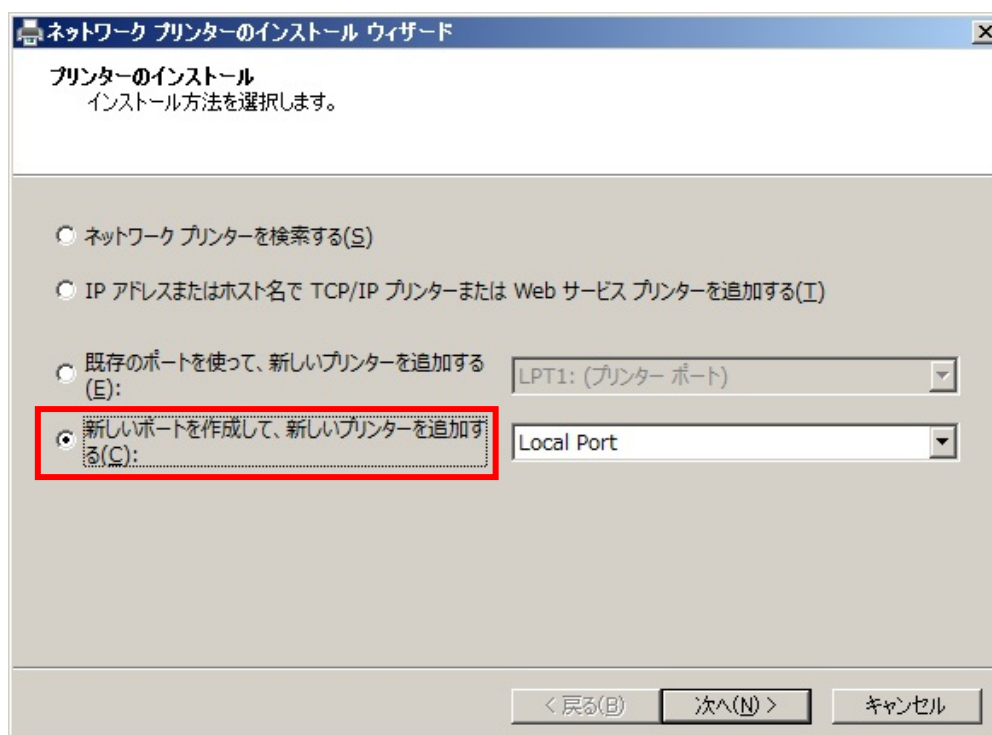
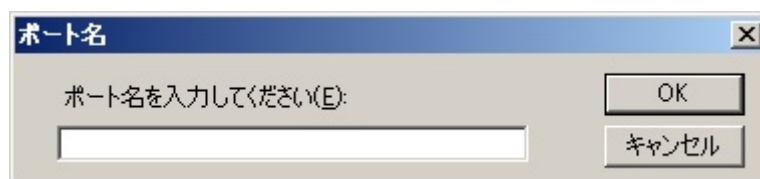
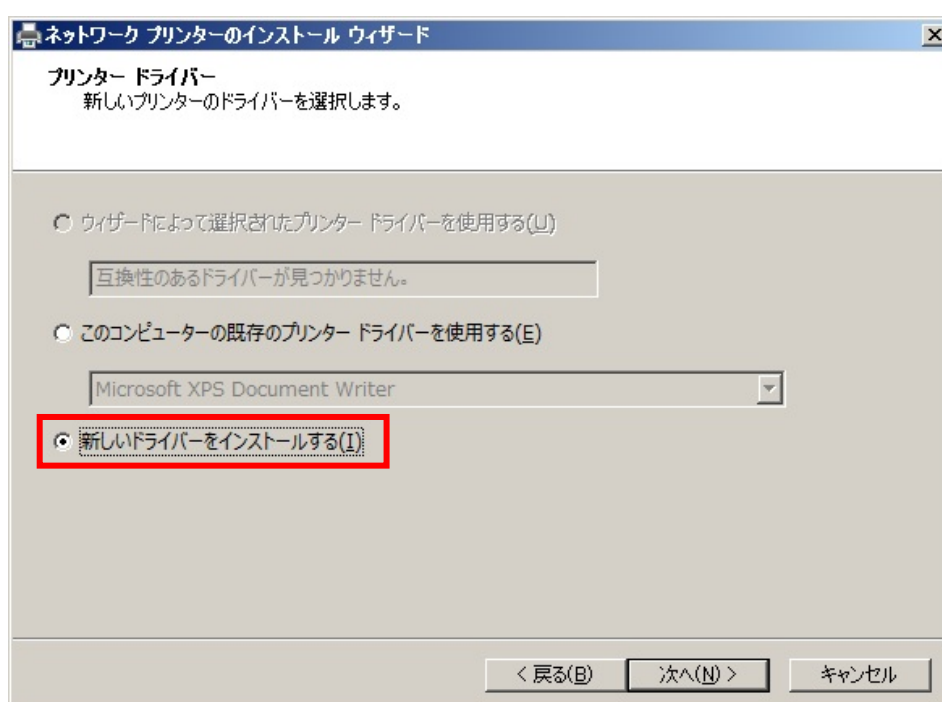
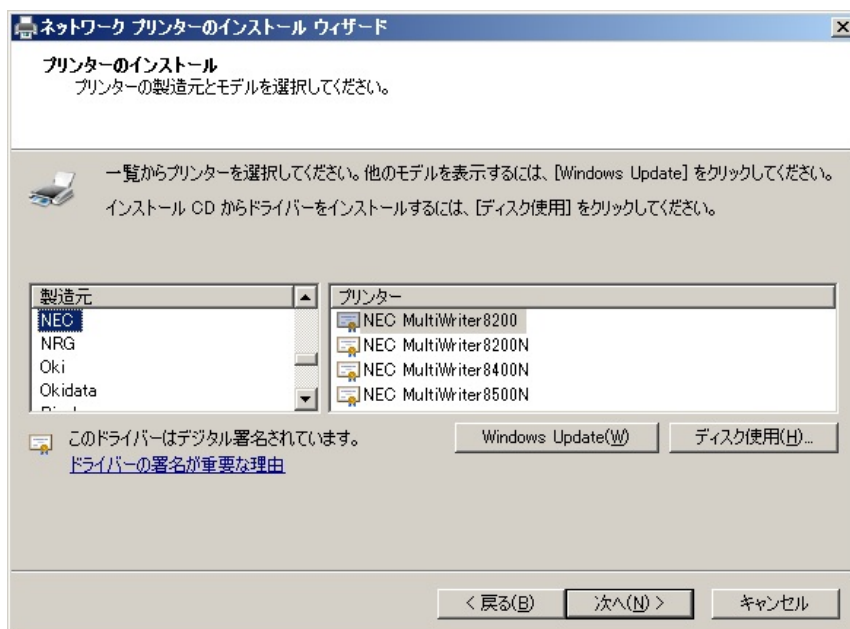
5.1　ネットワーク上のプリンターを使う

5.1.1　ネットワークプリンターの追加

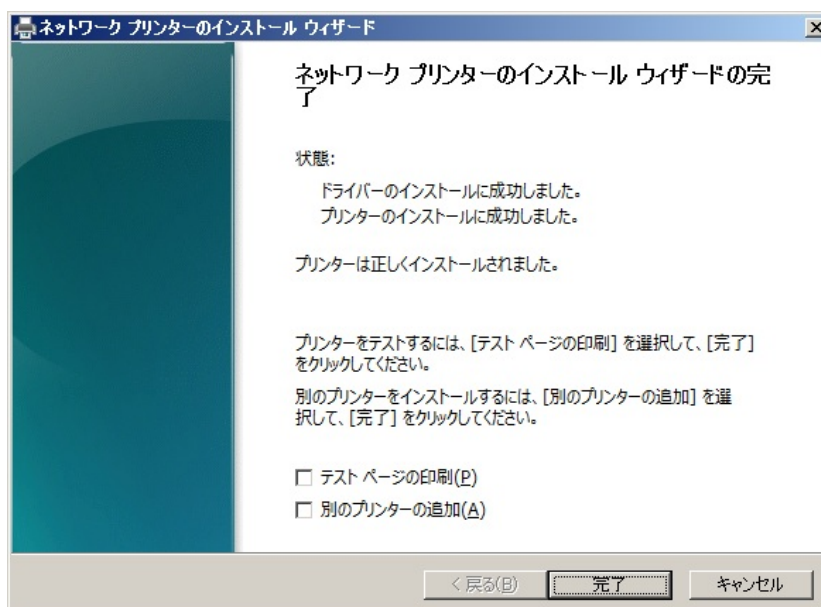
iStorage NS にプリンターを追加するには、以下の手順に従ってください。なお、プリンターに添付されたプリンタードライバーがある場合は、プリンターのマニュアルに従ってプリンタードライバーをインストールしてください。

1. 管理者メニューから [印刷の管理] を起動し、[プリントサーバー] をクリックします。

2. 印刷の管理ツリーで、目的のサーバーを右クリックして表示されるメニューから [プリンターの追加] をクリックします。

3. ネットワークプリンターのインストールウィザードの [プリンターのインストール] 画面で、[新しいポートを作成して、新しいプリンターを追加する] を選択し、[次へ] をクリックします。

4. [ポート名] を入力して、[OK] をクリックします。

5. [プリンタードライバー] 画面で、[新しいドライバーをインストールする] を選択し、[次へ] をクリックします。

6. [プリンターのインストール] 画面で、[製造元] と [プリンター] を選択して、[次へ] をクリックします。該当するプリンターが一覧にない場合は [ディスク使用] をクリックしてファイルの場所を指定します。

7. [プリンターと共有設定] 画面で場所とコメント(省略可能) を入力して、[次へ] をクリックします。

8. [プリンターが見つかりました] 画面で、[次へ] をクリックします。

9. [ネットワークプリンターのインストールウィザードの完了] 画面で、[完了] をクリックします。

5.2　削除済みのファイルを完全に消去する

ファイルやフォルダーをゴミ箱から消去したり、パーティションを削除しても、ディスク領域への割り当て解除が行われるだけでデータ自体はディスク上に残るため、特殊なツールを使用するとファイルの内容を復活させることが可能です。情報漏えいを防止するためにも、データは完全に消去しておく必要があります。

iStorage NS では、ボリューム内の空き領域（ファイルやフォルダーが割り当てられていない領域）を特定のデータで上書きすることでディスク上のファイルデータを消去する、ディスク・ワイプと呼ばれる機能が標準で用意されています。ディスク・ワイプには cipher コマンドの /w オプションを使用します。以下の手順で削除済みファイルを消去することができます。

1. 管理者メニューからコマンドプロンプトを起動します。

2. 以下の構文でコマンドを実行します。
   cipher /w:*driveletter*
   例えば、D ドライブ内の削除済みデータを消去する場合は、以下のコマンドを実行します。
   cipher /w:d:

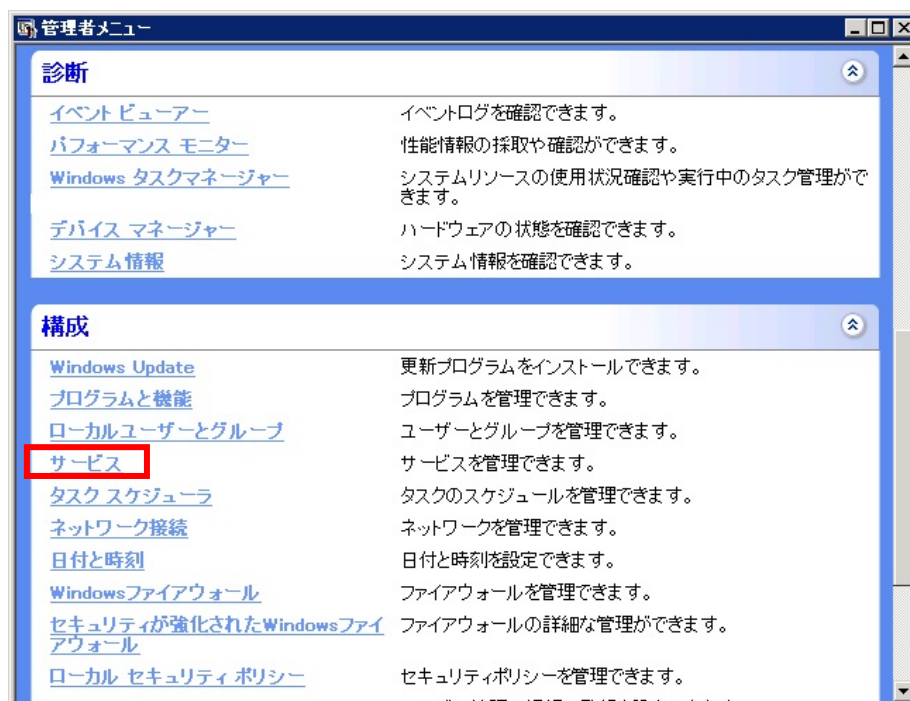
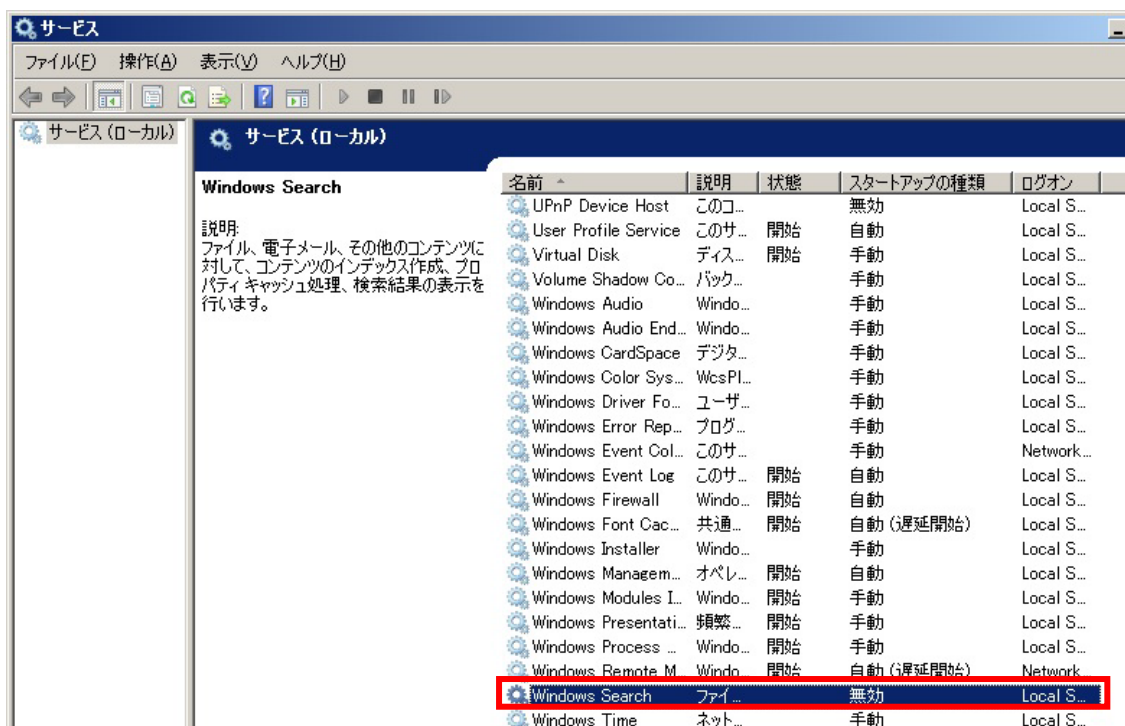
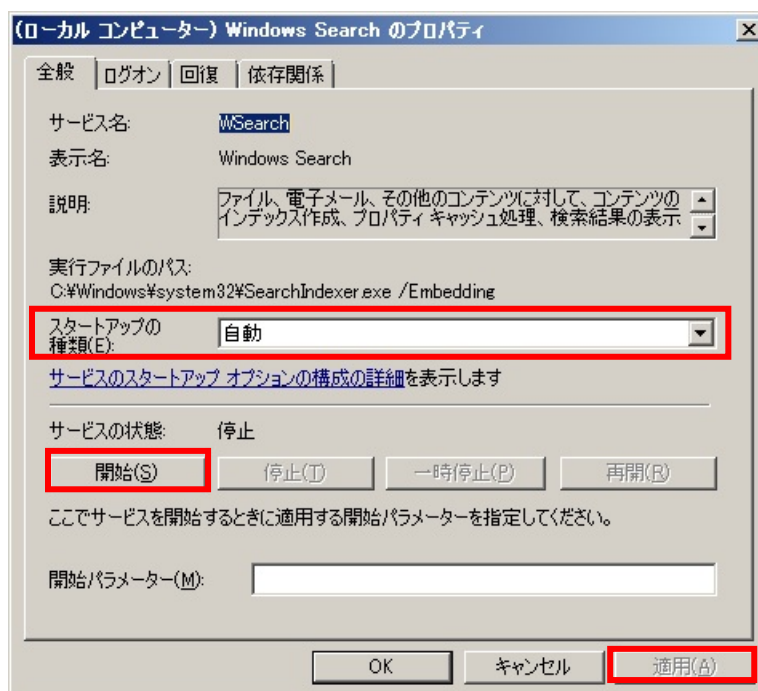
処理が完了すると、プロンプトに戻ります。既存のファイルおよびフォルダーを残して空き領域が上書きされ、データが消去されます。

【注意】
- cipher /w コマンドでは、ボリュームの空き領域のみを上書きします。実行前には不要なファイルやフォルダーを削除しておいてください。
- 上書きする領域が大きい場合は、処理に時間がかかることがあります。
- NTFSボリュームのみで実行可能です。
- 正しく消去されたことを確認する方法はありません。

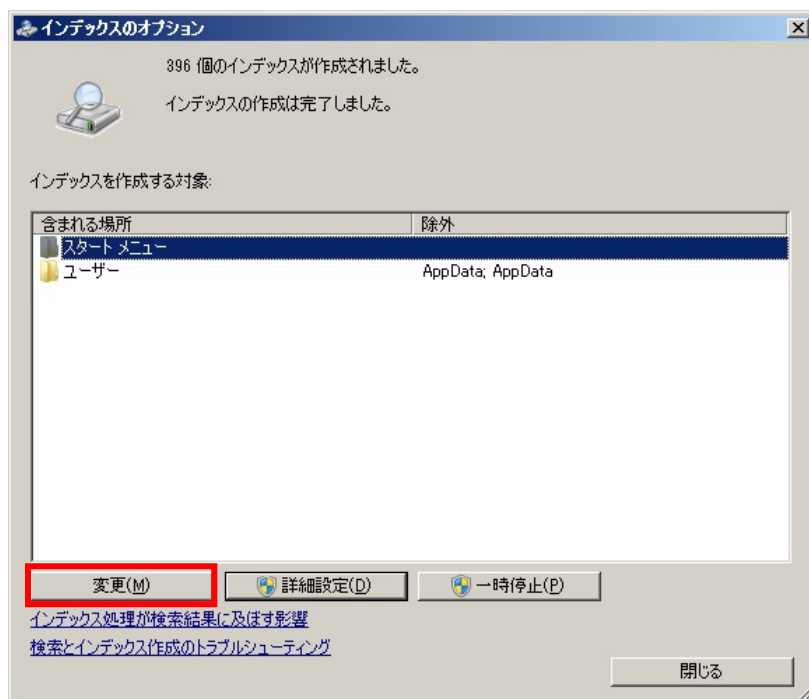
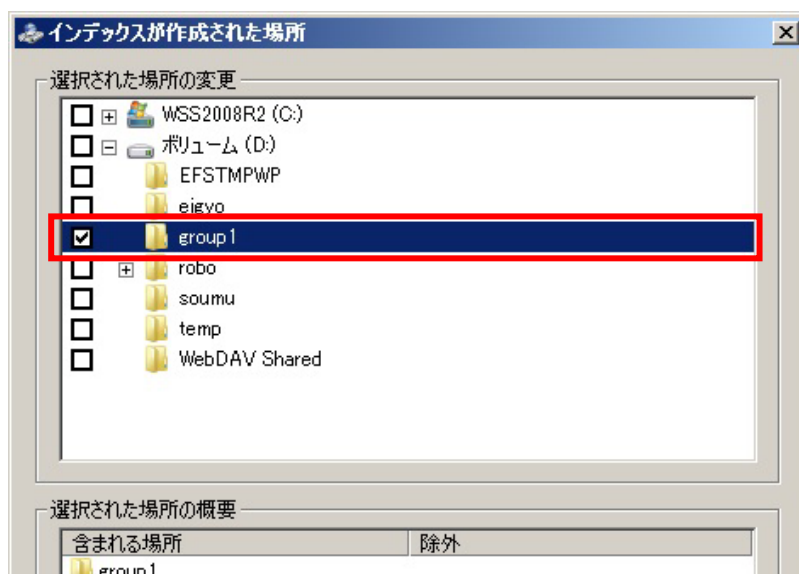
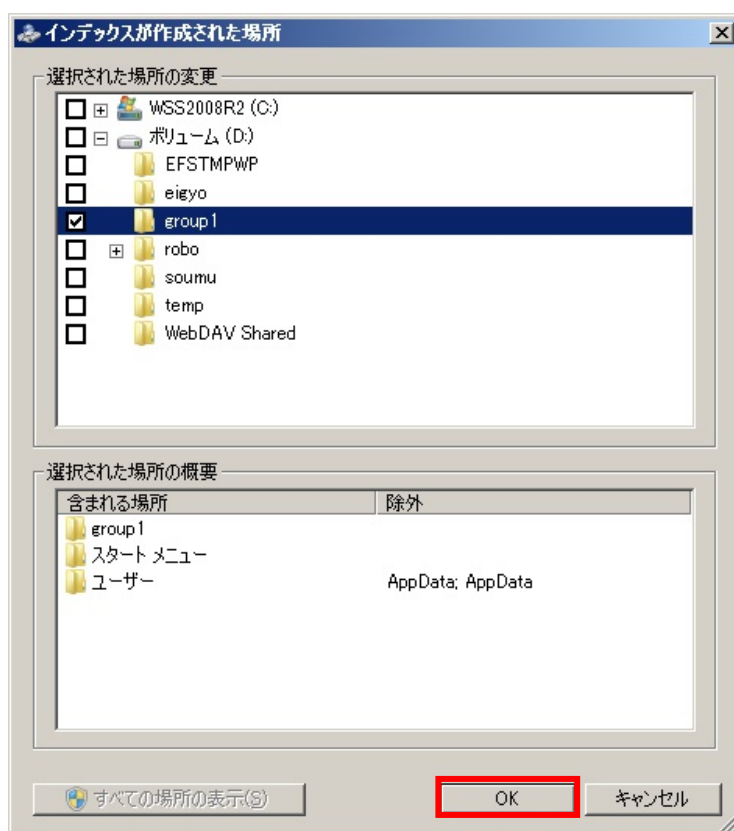
5.3　iStorage NS上のファイルを高速検索する

Windows サーチサービスは、iStorage NS 上のファイルのインデックスを作成し、クライアント PC からのファイル検索を高速化する機能です。なお、Windows サーチサービスは出荷状態では停止されていますので、ご利用になる場合はサービスを開始してください。ここでは、高速検索を行うフォルダーを設定する手順を説明します。

【注意】 ・クライアントPC が Windows XP、Windows Server 2003 の場合は、それぞれの装置に Windows デスクトップサーチがインストールされている必要があります。

1. 管理者メニューの[サービス]をクリックします。

2. [Windows Search] をダブルクリックします。

3. [全般] タブの[スタートアップの種類] で[自動] を選択し、[適用] をクリックした後、[開始] をクリックします。

4. [OK] をクリックし、プロパティを閉じます。

5. 管理者メニューの [インデックスのオプション] をクリックします。

6. [変更] ボタンをクリックします。

7. [選択された場所の変更] で、インデックスを作成するフォルダーを選択します。

8. [選択された場所の概要] に項番 7 で有効にしたフォルダーが追加されたことを確認して [OK] ボタンをクリックします。

9. [閉じる] ボタンをクリックして、[インデックスのオプション] 画面を閉じます。

5.4 iSCSIを使う

iSCSI Target によってリモートの記憶域を提供します。

詳細は別紙【Microsoft iSCSI Software Target 3.3 利用者ガイド】を参照してください。